

新年 あけまして おめでとう ございます

旧年中は格別のご愛顧を賜り誠にありがとうございました。本年も社員一同皆様のお役に立てるよう頑張りますので、お引き立てのほど謹んでお願い申し上げます。

昨年国際商品である非鉄金属の中で、代表的な金属である銅・アルミは共に一年を通じて上昇し、高価格水準のまま越年しました。電気銅は一昨年の平均価格が260円に対し昨年の平均価格は279円、アルミ地金は一昨年の平均価格が150円に対し180円であり、それぞれの現在価格は銅が350円アルミ235円であります。これからの価格の推移についてどう考えるかは、LME（ロンドン金物取引所）の先物相場が一つの示唆になります。銅については15ヶ月先物27ヶ月先物は29万～27万円の価格で本年後半に需給関係が今よりは緩むという見方が反映されている。アルミは先物価格が銅ほど開いてないが、やはり現物価格より安く、いずれにしても銅・アルミ共現在価格以上に上昇する可能性は高くない。もし今以上に上がる動きがあるとすればそれは完全な投機の世界で一過性の物であり、ゆるやかに下降線を辿っていくのが穏当なところであろう。しかし一年間平均価格ということになれば、今年は昨年より10%～20%水準を上げたところになるのではなかろうか。

ステンレスは非鉄とは違い、昨年は年初から秋にかけて下降の一途を辿ったが、秋から年末にかけてメーカーの必死の値戻し作業が徐々に浸透して上昇する環境になってきている。全生産量の1/3を占める輸出の価格が様変わり好転し、安値の輸入玉が激減していること、ニッケルの価格上昇が原料価格を押し上げていることから価格水準訂正の動きが強まっていくと考えられる。

建材用銅板・条については、メーカーがリストラに取り組み収支の改善を目指しているが、採算割れ品種であり、量の拡大が見込めない建材用銅板・条は昨年秋からのロールマージンの水準訂正の動きが今年も続き、電気銅建値プラス150円を目指す。

さて今年亥年であり、亥といえば猪突猛進という言葉連想します。私達もその気迫をもって、今年新しいひとつの成果を得る年にしたいと念じております。皆様にとりまして今年が良い一年となられますよう心よりお祈り申し上げます。

☆ 1月の魁基準建値は347円/kgです

昨年12月の電気銅建値は1～15日340円、16～30日350円で推移し平均銅価は344円76銭でした。1月の電気銅建値は350円でスタートしました。従って1月の魁基準建値は $(344.76 + 350) \div 2 = 347$ 円38銭で円未満切捨て347円となります。魁価格帯は300円超～350円以下の欄で前月と変わりません。



1月17日、阪神地区を襲った地震は未曾有の大災害をもたらした。久しく地震のなかった関西では瓦屋根が多く、直下型の強烈な地揺れに瞬時に崩れてしまい多くの圧死犠牲者が出た。亡くなられた方のご冥福を心からお祈り申し上げますと共に、家屋を失われた方々や損傷を受けられた方々に謹んで御見舞いを申し上げます。

現地へ足を入れ見渡す光景はテレビで見る以上に凄惨で、建物の崩壊の有様や火災の範囲の広さを見ると犠牲者の数が少なくてよかったなと思える程で、もしこの地震が1～2時間あとに起こっていたらと思うと身震いがする。地震後半月を経た今でも30万人近い人々が学校等での避難生活を続けざるを得なく、又水道やガスの来ないところで生活をしている人は200万人を越え、大変不便な生活を強いられ苦しんでおられる。阪神地区といえば関西に住む者にとっては交通便も良く憧れの高級住宅地区であったが、今そこが廃墟と化してしまってる。1年中で一番寒い季節で、流感も蔓延している時だけに1日も早く暖房され静かな処で睡眠がとれ風呂にも入れるようになってもらいたい。明日は我が身のことと思えば直接の援助活動ができなくても、乏しきを分かち、復興への一助にせめて義援金をと思う。

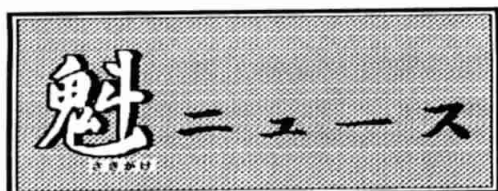
兵庫県の隣り大阪府下の被害状況はどうであったか。淀川に架かる橋のひとつ176号線十三バイパスの橋脚に亀裂が入り通行止めになっているが、食器棚が倒れ、建物に亀裂が入り、商品が倒れ、給水管が外れて冠水する、屋根がずれ落ちるなど倒壊はほんの一部ですんだが、大きな被害が出ている。自動立体倉庫（高さ10mまでのものは概ね大丈夫であった）や立体駐車タワー等は高い所での揺れが大きいので商品が落下したり自動車が壁でようやく落下を免れておる等の被害が出ており復旧に手間取っている。地下のことは見えないのでわからないが水道管や下水管の損傷はかなり広範囲に亘っているのではなかろうか。

このたびの阪神大震災で瓦屋根の家の倒壊が多く軽量屋根材の家に倒壊が少なかったことはこれからの建築に大きく影響しよう。ハウスメーカーのシェアは一段と高まるであろうし、そのため流通の関わる部分が狭まっていく恐れがある。そのなかで先を見通し対策を講じて行くことが大切になってきた。

今年は亥年である。1923年の関東大震災（死者99,300人）1959年の伊勢湾台風による大風水害（死者5000人余）そして本年の阪神大震災、有史記録的な大災害が亥年には多い。これは偶然かもしれないが、亥年は過去は景気上昇のきっかけの年になっている。千年に一度といわれる程の激震であったが、猪突猛進の気迫で復旧に向けて邁進する人に幸いあれと願わずにはおれない。災い転じて福となるよう祈りたい。

☆ 2月の魁基準建値は344円/kgです

1月の電気銅建値は4～16日350円17～19日340円20～31日350円で平均銅価は348円42銭でした。2月の電気銅建値は340円でスタートしましたので2月の魁基準建値は $(348.42 + 340) \div 2 = 344$ 円21銭となり円未満切り捨て344円となります。価格帯は300円超～350円以下の欄で前月同様変わりません。



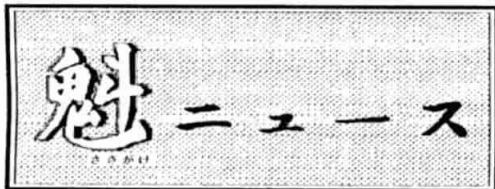
阪神大震災後1ヶ月半ほど経ったというのに倒壊した家屋の殆どが手付かずのままで、まだ水もガスも来ないところが可成り広い範囲で残っている。梅が咲き春はそこまできているのに被災地の春はまだまだ先のことに思われる。瓦礫の処理が半年はかかりそうだ。建設の槌音が聞かれるようになるのは1年程先のことになるのではなかろうか。今建てられているのは応急対策としての仮設のものばかりである。この震災が引金になった倒産や整理が増えてきた。マンションはもう嫌だという人も増えたのでマンション建設も減少するのではないかと思われる。中古マンションの資産価値をシビアに見る人が増え流通性が更に悪化してきているらしい。今の処あまりいい話が出てこず暗い話ばかりである。

折しも株式市場が1万7000円を割りこんだ。裁定取引とか判りにくい取引が株式市場を博打場にしてしまい、大衆の資金が近寄らなくなってしまった。株価形成を市場原理にまかせずPKOで支えたりしたのもよくない。元本保証がなく定期金利より低い利回りで時価発行しても、無償増資等で株主への還元を考える企業も少なく、取り込む企業ばかり多くて株主になる妙味が少なくなった。そのようなところへ金がまわってくる筈がない。企業業績が回復して高止まりの株価に応じた業績に戻るのを待っていても峠をすぎた日本経済の低成長下では期待薄であり、落ち込んだ業績や利回り等からみて下がるべきところへ下がらないと大衆の証券市場への回帰は見込めない。そうした方がすっきりするのは判っていてもそうなると株式持合い構図を組み込んだ金融システムが破綻するのでやりたくても出来ない。まさしく八方塞がりの状態になっている。

博打といえば国際商品市場でも先物取引、オプション取引が幅をきかし大幅な値動きをもたらしている。商品ファンドという一種の投資信託のようなもので（日本では大手商社がこの分野に進出している）大量の投資資金を動かしているが、これも元本の保証はなく投機資金と断じてよい。損する人がいないと儲かる人は絶対いないのが博打の世界である。現物の売買でなく、値鞘を稼ぐことのみ目的とする取引を沢山してもらってそのハネマエで飯を食う。そんな虚業が増えた。共産主義社会は20世紀末に崩壊したが虚業が増えてきている資本主義社会も崩壊への道を進んでいるように思えてならない。汗して得た貯金をもっと増やせたらと欲にかいて元も子もなくさないようたたり多き神様にはさわらぬにこしたことはない。甘い話には乗らぬこと、楽しんで儲けようとは考えぬことが肝要である。

☆ 3月の魁基準建値は326円/kgです

2月の電気銅建値は1～7日は340円、8～28日は330円で平均銅価は332円50銭でした。3月の電気銅は320円でスタートしました。従って3月の魁基準建値は $(332.50 + 320) \div 2 = 326.25$ となり円未満切り捨て326円となります。価格帯は前月同様300円超～350円以下の欄で変わりません。



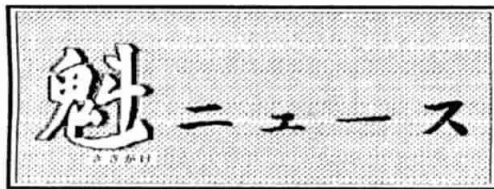
「暑さ寒さも彼岸まで」と言うように春の彼岸を過ぎると吹く風も穏やかになり、寝床でもいつのまにやら毛布を蹴ってしまったたりしている。さてこの彼岸。仏教から来ているらしいとは判っているが、何で春分や秋分の頃をお彼岸というのか、墓参りの時家族から尋ねられてちょっと調べてみたのでご紹介しようと思う。

彼岸とは文字通り「向こう岸」ということで、これに対して「こちら側」を此岸（しがん）という。向こう岸、それは阿弥陀仏の住む極楽浄土でこちら岸は生老病死の四苦がある娑婆の世界、すなわち生きている現世を言う。インドの古語サンスクリットに、パーラミター（波羅密多）という語がある。波羅密多（はらみた）とは完全、悟りという意味で一切の曇りのない完全な世界、悟りの境地、すべての煩惱の火が消えて囚われのない涅槃の境地に達したこと、それが向こう岸に着くこと（到彼岸、パーラミター）である。この彼岸の思想を説教僧が春分の頃＝春の種蒔時期、秋分の頃＝秋の刈入れの時期に農民が田園で働いている時に説いてまわったので、説教僧が来ることを隠喩的に「もうじき『彼岸』が来るぞ」と農民の間で言い習わして彼岸という語ができたという。春分や秋分を中心とした前後三日間を指しお墓参りをする期間であるが、先祖の霊を慰め、自らもまた彼岸に到ることを願う仏教国日本独自のものらしい。

さて、その彼岸がすぎ万物みな萌え出ずる季節がきたというのに、景気の方は冬に逆戻りするような感じがする。大震災、円高、株価低迷、地価の下落。悪い材料が目白押しでいい材料がない。もはや他力本願では生きれない娑婆でいかに自力をつけていくかが肝要である。折しも地方選挙でマイクが候補者名を連呼しているが、それが今年ほど不愉快な騒音に思える年はかつてなかったように思うのである。

☆ 4月の魁基準建値は312円/kgです

3月の電気銅建値は1～15日320円、16～31日310円で平均銅価は315円でした。4月の電気銅建値は310円で始まりましたので、4月の魁基準建値は $(315 + 310) \div 2 = 312.50$ 銭となり円未満切り捨て312円となります。従って魁価格帯は前月同様300円超～350円以下の欄で変わりません。



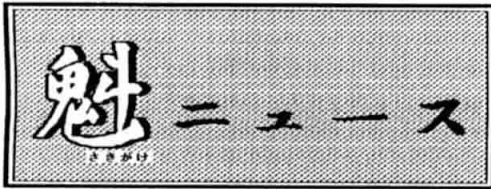
若葉が銀白色や萌黄色に輝き、緑の美しい季節になりました。ゴールデンウィークも前半は雨模様でぐずついたが、後半は好天に恵まれ自然の恵みを満喫された方も多いのではなかろうか。地震、円高、サリンのことなど一刻忘れてこの国に生きることの幸せを感じたのは私だけではないと思う。

さてオウム教のことだが、逮捕されている信者の顔をテレビや新聞で見ると、いい顔をしている若者が多い。きっと純真で素直でどこかまだ大人になりきっていないところがあるような感じなのである。宗教はそういう人ほど引きつけられやすい。麻原教祖は何を説き、多くの若者を引きつけたのか知らないが、ハルマゲドン（地球滅亡説）を理由に自分の理想国家を一直線に猛スピードで建設しようとしたようである。それが多くの信者を巻き込み犯罪行為とされる数々の問題を惹起したと考えられる。

今ラビ・バトラーの著書がよく売れている。読まれた方も多いと思うが、約20年前に全体主義共産主義社会の崩壊を予測的中した在米インド人の経済学者である。彼は循環論者で資本主義社会も20年以内には崩壊し新しい社会制度に取って代ると予測しているのだが、自然の営みは全て循環しているのだから社会循環の法則に基づく彼の説には説得力がある。未来に対する不安や混迷は豊かさの裏返しであろう。貧しければ今解決しなければならない問題に直面しそれと闘うことに集中しなければならないのだから未来のことなど考えてる暇も余裕も出てこない。今日本の政治が貧しいのも豊かさの裏返しで、国を憂える志士も出てこない。しかしこのまま日本の繁栄が続くとは考えられない。先を考えると心配でたまらなくなる人もいよう。とって悲憤慷慨するには及ばない。その時はその時のようになるのが娑婆であるとお釈迦さんは説かれている。麻原教祖はどこで間違ってしまったのだろうか。人を救うのでなく苦しめる方にまわってしまった。

☆ 5月の魁基準建値は289円/kgです

4月の電気銅建値は1～6日310円、7～18日300円、19～30日290円で平均銅価は298円でした。5月の電気銅建値は280円でスタートしました。従って5月の魁基準建値は $(298 + 280) \div 2 = 289$ 円となります。価格帯は250円超～300円以下の欄となり1ランク下がります。これは昨年11月以来6ヶ月振りのことです。非鉄金属はなべて円高の影響で国内価格が下落してきております。



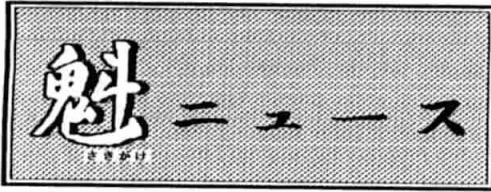
5月としては大阪気象台観測史上一番の降水量で梅雨のような1ヶ月であった。他の地区も同様で10ヶ月も給水制限が続いた福岡でも今日からそれが解除されたことは喜ばしいことである。関西は琵琶湖という大きな水瓶のお陰で昨夏の日照りも大事に至らず助かったが、いま琵琶湖の水位は80cmプラスで瀬田川から天ヶ瀬ダム、そして宇治川を経て淀川へと流れていく水域は流量もいつになく多く宇治川流域の京都府南部には洪水注意報が暫らくの間続いて出されていた。それほど今年は雨に恵まれている。

地球全体では毎年四国位の面積が砂漠化していつてそうである。アマゾン、東南アジア、アフリカ、ヒマラヤ等では森林破壊が進行し、緑が消え、自然と人間の調和のとれた生活が崩れていつている。砂漠化や洪水による被害で、作物の収穫が出来なくなり飢餓と貧困に苦しむ人々が増えている。隣国中国でも急激な工業の発展で公害被害が増え、土壌の酸性化が進み農作物の収穫に影響が出ていると報じられている。地球の自然破壊は大変なスピードで進行していると心配される。もはや一刻の猶予もなく環境の悪化に歯止めをかける運動を展開していかねばならぬはずだが、我々日本がその推進役を買って出るべきではなかろうか。お金を貯めこんでイ、イ戦争に130億ドルの金を出して蔑まれる愚かな金の使い方をする愚行を重ねてはいけない。世界の禿山に植林をし、治水をすること等に資金や人材を投下し、地球環境保全のイニシャティブをとることを実行すべきではなかろうか。何もしないからせめて金を出せと要求され、金を出しても感謝されない。本物をしていないからである。私達の子孫のためにも地球の為になることをすることが金を貯めるよりもっと尊いものを残すことになることを世論として起こすべきではなかろうか。

戦後の日本はひたすら経済の発展を目指して進んできた。それが世界の人々から、豊かになったのに未だそれだけか、もっと他のことで貢献できないのかと思われ非難や怨嗟の声となっている。しかし日本はまだ何もしていない。PKOも海外青年協力隊も海外留学生の受け入れも腰が据わってない。自然に恵まれた日本がその恩恵を地球上のすべての人々と一緒に享受し感謝するよう緑の天使の役を果たせたら、世界の人々から歓迎され尊敬の念を持たれるであろう。戦後50年の国会決議宣言の文言をめぐって政党が意地を張り合うような低次元なことでは日本の21世紀に期待が持てないように思うのである。因みに6月は環境月間で6月5日は環境の日である。

☆ 6月の魁基準建値は286円/kgです

5月の電気銅建値は1～23日280円、24～31日290円で平均銅価は283円でした。6月の電気銅建値は290円でスタートしました。従って6月の魁基準建値は $(283 + 290) \div 2 = 286$ 円50銭となり、円未満切捨て286円となります。価格帯は250円超～300円以下で、前月と変わりません。



戦後、右肩上がりの経済成長の中で「日本式経営」は他国より範とされてきたが、低成長経済への移行と共に変革を余儀なくされてきた。企業はリストラ（再構築）に注力し過剰雇用を改善することをはじめとして高コスト経営の改善に取り組みだした。しかしこのリストラはケチケチ作戦であり、全企業がやると支出削減を通じて不況を拡大する。そこでいまリエンジニアリング（業務の抜本改革）ということがさかんに言われてきている。リエンジニアリングは本来「設計のやり直し」の意味であるが、80年代後半の不況から脱出する方策として米国企業の間には広がった。その際の目標を「顧客満足度」をいかに高めるかにおき、業務改善を①サービス②品質③スピード④コストの四つの観点で取り組む。四つの観点のうち日本企業の欠点はサービスとコストである。サービスはよく見えるが実際は「生産者の論理」が前面に出て消費者の視点は今ひとつであった。コストは円高の進行による内外価格差の拡大で誰の目にも明瞭である。高コスト経営の是正の決め手は人件費の抑制である。対売上高比率が上がるのではなく下がらねばコスト競争の敗者となる。過剰雇用に手をつけず景気回復に備える考え方でなく生産を海外に移し、余剰人員を整理している。その上で更に人件費を抑えるため新しい雇用慣行や制度が考えられ導入されようとしている。「年俸制や契約制」の導入である。年俸制とは企業と従業員が毎年、その年の業務内容と賃金について契約する制度、契約制はそれより長い一定期間の雇用を保証する契約を結ぶ制度だがいずれも60才定年や年功賃金にかかわらないのが特徴である。日経連は新雇用制度について次の3タイプの試案を示している。

<長期蓄積能力活用型>

期間のない契約
 管理職、総合職、技能部門の基幹職
 月給制か年俸制
 職能給
 昇給制
 賞与は低率+業績スライド

<高度専門能力活用型>

有期契約
 企画、営業、研究開発など専門部門
 年俸制
 業績給
 昇給なし
 賞与は成果配分

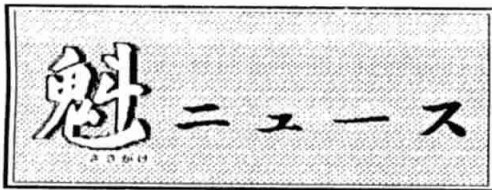
＜雇用柔軟型＞

有期契約
 一般職、技能部門、販売部門
 時間給制
 職務給
 昇給制なし
 定率賞与

中小企業の雇用問題をめぐる悩みは大企業以上に大きく多種多様である。量的にも質的にも慢性的欠乏症にさい悩まされてきた。中小企業は生産性が低いため賃金も退職金制度も福利厚生も劣るから当然といえばそれまでだが、今や絶対的量不足は解消され雇用に関する問題点も絞りこまれてきた。大企業ほど過剰雇用をしていないので変革による震度も低く、新時代に合わせた改革を漸次取り入れ、生産性を高め対売上人件費の低下をはからねばならない。前述の3タイプはあくまでも試案でありまだ他にも新しい雇用制度が考えられ、また業種や企業規模やその他種々の条件でフレキシブルな組合せが出来よう。画一化されるものではないので研究の余地が大きく残されている。もはや今迄の路線の延長を走っているのは脱線転覆を見ることが明らかな時代なのだ。我々も雇用制度のことを検討すべきところへきているのではなかろうか。

☆ 7月の魁基準建値は304円/kgです

6月の電気銅建値は1～15日290円、16～20日300円、21～30日310円で平均銅価は298円63銭でした。7月の電気銅建値は310円でスタートしましたので7月の魁基準建値は $(298.63 + 310) \div 2 = 304$ 円31銭となり、円未満切捨て304円です。魁価格帯は300円超～350円以下の欄となり1ランク上がります。



暑中お見舞い申し上げます。

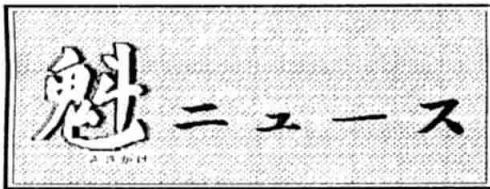
気象庁の予測がはずれ、暑い夏がやってきました。梅雨が明けて最初の一週間は身体が馴れていないせいかあまりの暑さに音を上げましたが、ようやく身体も馴れあとひと月のことと思えば、精一杯太陽の照りつきが大地に降りそそぎ稔りの秋につながって欲しいと思うこの頃です。景気の良くない時だけに自然の恵みにまで見放されてはたまりません。そう思うと暑い夏を喜ばずにはおれないわけです。

景気は益々悪くなってきました。デフレスパイラルに入ったという人もいます。本当にそうならまだまだ落ち込んでいくこととなります。企業倒産や個人破産が増え、いつ我が身に及ぶかも知れません。しかしこれは天災と違って或る日突然でなく前以って予知することが出来ます。又対策を講ずることも可能です。とは言っても私達はディスインフレは経験してきましたがデフレは初めてのことであり、未知の世界に入るようなものです。そこでは過去の経験や常識では考えられないことに直面することとなります。電卓のACキーを叩くが如く、今迄のやり方にこだわらずall clearにしてかからねばなりません。産業の空洞化がどんどん進んでいます、第三次産業でも空洞化が進んでいる例があります。DMの原稿をコンピューターで電送し、海外で印刷し日本へ郵送するのです。国内郵便料金80円が香港から送れば50円ですむそうです。異常な高水準で進んで来た住宅着工戸数も年135万戸ペースに落ちてきました。まだ下がるでしょうし、他産業からの進出が増え競争も激化することは必至です。これからが修羅場です。敗者にならず勝者にならねばなりません。

☆ 8月の魁基準建値は312円/kgです

7月の電気銅建値は1～11日310円、12～16日320円、17～19日330円、20～24日320円、25～31日310円と往って来いになり、平均銅価は315円71銭でした。8月の電気銅建値は310円でスタートしました。従って8月の魁基準値は $(315.71 + 310) \div 2 = 312$ 円85銭円未満切り捨て312円となります。

為替とか国際商品に多額の投機資金が動く時代です。デリバティブというヘッジか投機かわけのわからないものが、銅のマーケットで相場を大きく動かす場面が増えて来ました。相場が需給関係だけで決定されてきた過去と異なり、今迄の経験や常識では読めない時代に入りました。従って銅相場の今年後半の見通しも、鉱石の需給面から言えば決して強気になれないのですが、どうとも言えないのは投機が盛んになってきたからです。



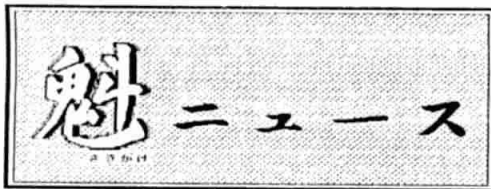
第二次世界大戦の敗戦から50年経ちました。あの時今のような経済的な繁栄と平和を誰が想像しえたでしょう。ガーガーと雑音が入り、聴きとりにくい天皇の詔勅を疎開先の親戚の家で多勢の人と聞き戦争が終わったと教えられたが、その夜どこの家からも明かりが洩れ昨夜までとのはっきりとした違いに戦争の終わったことを実感した。食糧難は日増しにつのり、母の着物や備蓄の砂糖や石鹼が物々交換で米や小麦粉に代わり、トタン板を張ったパン焼器でおやつを作ったり、収穫前のカボチャが一夜のうちにそっくりとられてしまったり、学校へ持っていく弁当のオカズがいつもへしこ（鯛のぬか漬）の焼いたのばかりだったこと、味噌汁にダンゴがいっぱい入っていて御飯の足しにしたこと等、育ち盛りの子供ゆえ、食い気に関する記憶は未だに生々しい。アメリカからの放出古着を活用したり、今の靴下と違ってすぐに穴のあく靴下は何度も何度も繕って大切に履いたし暖房の充分でない寒い冬は厚着をして凌いだ。

今、飽食の時代となり1億総グルメ、衣服は世界の有名ブランドが簡単に手に入り、兎小屋とは言われても冷暖房完備、子供部屋もある。本当に豊かになったものだ。しかし何もかも焦土と化した中で営まれた戦後の貧しかった生活であるが、今では懐かしくいとしい。皆が肩を寄せ合って生きていた。そこには谷内六郎の描く詩情豊かな空間がいっぱいあった。ところがどうだろう。豊かになったものの家族愛とか隣人愛とか人に対する思いやりの心が乏しくなり、殺伐とした世の中になってしまった。金儲けのために簡単に人を殺す。手段を選ばない。ピストルが増えてきて白昼堂々と使われる。ところが暴力団事務所へ強制捜査をかけても一丁も出て来ない。必携品化しているから彼等の身のまわりのどこかに必ずある筈で、傍になかったらいざというとき困る筈である。ところが捜査しても出て来ない。警察から捜査のことが前以てクリークされているからとしか考えられない。警察は貸しを作り、犯罪者の自首で貸しを返してもらおう。暴力団と警察はこんなところでもちつもたれつのお付き合いをしている。

さて、物質的には豊かになったが精神的には貧しくなった日本、だんだん住みにくくなっていくのならこれは困ったことである。いつまでも美しい自然に恵まれ心豊かな人々が住む国であって欲しい。そのためには何をすべきか皆が真剣に考えて行動に移さなければならない大切な正念場にあるように思う。私はまず各家庭から改革をしていかねばならないと思う。住居スペースの問題があり一朝一夕にはいかないが、核家族化から2～3世代同居の昔のスタイルに戻すべきと思う。長幼の序を尊重することや、家族愛に満ちた家庭は子女の人間形成に大切な働きをし、心豊かな人間を育ててくれる。次の世代を担う青年子女のためを考えれば、互いが我儘を押さえて協力しあって生活していくことが、大切なのではないかと思う。

☆ 9月の魁基準建値は337円/kgです

8月の電気銅建値は円安の影響を受け1～3日310円、4～12日320円、14～16日330円、17～31日350円で推移し、平均銅価は334円34銭でした。9月の電気銅建値は340円でスタートしました。従って9月の魁基準建値は $(334.34 + 340) \div 2 = 337$ 円17銭で円未満切捨て337円となります。価格帯は前月同様300円超350円以下の欄で変わりません。



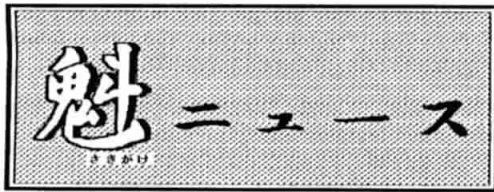
百日紅の花の残り咲きに僅かに夏の面影を見るが、金木犀の甘い香りが鼻をくすぐるといよいよ秋本番の到来を想う。緑々とした広葉樹の葉も心なしか色づき垂れ気味になって来た。今夏は日照りが殊の他強かった所為か街路樹で枯れたのを時折目にするが、歩道脇に垣根風に植えられているつつじ等は根腐れしたのか、真っ赤に灼け枯れているのが目立つ。

自民党は河野さんから橋本さんに総裁が変わったが、総理大臣は村山さんのままでどうも来年の衆議院議員選挙までは政府は変わらないようである。戦後50年を経て経済は頂上から急降下の一途を辿る様相を見せているが、これに対する適切な抜本的対策は何ら講じられず、マンネリ化した財政投融资を少し増やしているものの、目立って効果の表れない状態に経済界だけでなく国民全体がイラダチを覚えているのに、国民に企業に元気を出させるような政策は出てこない。村山さんが唯一仕事らしい仕事をしたと後々言われるのは積年の内閣が引き延ばしてきた水俣病問題の清算ただひとつということになるかも知れない。唯一、善戦していた個人住宅建設も本年は昨年より5~6%ダウンになるそうで、我々の業界にとっては明るい材料がまったくない。息の長い絶好調が続いているパソコン関連や半導体関連産業はWindows 95 効果もあって絶好調のようであるが、残念乍ら我々にはおこぼれにもあずかれぬ違う世界の話である。

秋は収穫の季節で経済活動も活発になるはずだが、ボーナスも渋く今年の歳末商戦は厳しいと思われる。今一番気懸かりなことは、台所が火の車というところが増えて来ているのではないかということである。売ることにのみ専念して肝腎の集金の面でトラブルを起こさぬよう注意することが肝要である。我々の商売も銀行の商売も借りた信用に利鞘をのせて貸している点で一緒である。ただ銀行は担保をとった上に極めて高い利益率の商いをしているが、我々は高いリスクの上に極めて低い利益率の商いをしている。武具もつけず裸で戦場に出ている如く、かすり傷でも致命傷になりかねない危なっかしいことをしているのだ。したがって四方八方目をくばって細心の注意を払うことが大切で、このへんのことを営業社員に周知徹底し、致命傷を負わないようにすることが大切だと思う。

☆ 10月の魁基準建値は342円/kgです

9月の電気銅建値は1~19日340円、20~30日350円で、平均銅価は344円でした。10月の電気銅建値は340円でスタートしました。従って10月の魁基準建値は $(344 + 340) \div 2 = 342$ 円となります。魁価格帯は前月同様300円超350円以下の欄で変わりません。



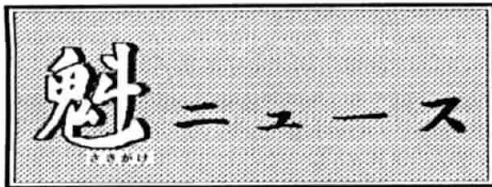
木枯らし一番が吹いて、冬の気配が漂ってきたが、紅葉がいよいよその朱を濃くし錦秋を飾ってくれるのもこれからである。

大阪で今月中旬にAPEC会議が開催される。外国から多勢の賓客が一堂に会する会議は東京と相場が決まっていたが、関西しかも大阪で開かれるのはおそらく初めてのことと思う。警備に随分神経を配っているようで閣僚会議はホテルニューオータニで、首脳会議はこのために新築された大阪城公園内の迎賓館で開催されるが、いずれも警備面から選定されたと聞いている。市内の高速道路や一般道路で通行止めや通行規制が行なわれるので今月の第三週は市内中心部はもとより、周辺道路にも相当な混雑・渋滞が起こると想われ、物流機能が麻痺するのではないかと心配している。しかし参加国の方々に大阪の街に親近感を持って帰っていただき、さらにサミットやオリンピックが大阪で開催されることに繋がってくれれば何よりことと思うから多少の不便は地元民も辛抱し、協力しなければならないだろう。

ところで肝腎のAPEC会議であるが、この会議は昨年インドネシアで開かれ、その際発展途上国の多くのメンバー国から日本のアメリカ追随型の外交姿勢、アジアの声を代表できない軟弱な姿勢に失望の声があがったと聞いているが、そんなピンと背筋のたった姿勢がとれない日本に主催国として一体何をまとめることができるのか心配なことだ。職業に貴賤はないんだが、元コメディアンを国会議員や知事に選ぶところで開かれる国際会議がどんな成果を生むのか誠に気にかかる昨今である。

☆ 11月の魁基準建値は332円/kgです

10月の電気銅建値は1～16日340円、17～31日330円で推移し、平均銅価は334円72銭でした。11月の電気銅建値は330円でスタートしましたので、11月の魁基準建値は $(334.72 + 330) \div 2 = 332$ 円36銭円未満切り捨て332円となります。魁価格帯は300円超350円以下の欄で前月同様変わらずです。



本年もあと30日ほどで大晦日となり新年を迎えます。今年はお屠蘇気分も抜けぬ間に阪神大震災が襲い、オウムの子リン禍と続き、そこへ瞬間80円を切るような円高、東京大阪で続いた金融機関の倒産と恐ろしいことがこれでもかというほど続きました。戦後50年右肩上がりの経済の中で、豊かさを求める生活になれていた我々が、右肩下がりの経済に入ったこれからの日本が今迄とは違う時代に入ったこと、今迄と同じ生活感覚をひきずってはいけないことを考えさせられ、教えられた年と言ってよいでしょう。

私達の生活に一番直接に響いてくるのは雇用の問題です。産業の空洞化により多くの労働力を吸収していた産業が、なべて人減らしに走り新卒者の求人を抑えています、働きたくても職はなしということが現実身近に増えてきております。年末のボーナスも出せない企業、貰えない社員が増えてきています。先日久し振りに大阪ミナミの夜の歓楽街を歩きましたが、通りに立っている客引きの数の多さにビックリしました。キャバレーがなくなっていったように、そのうちクラブも消えてなくなってしまう時代が来るのではないかと思えるほど閑散とした光景に、あらためて不況の深刻さを覚えました。

好況感を味わうことのできない慢性的な低成長経済では、量より質の販売体制が大切になるでしょう。売上高より売上粗利益と営業経費を重視し、デッドストックや不良品の発生、仕事のミス等損失の原因となるものを減らすようにすることも大切であります。貸し倒れを防ぐことは言うに及ばず、脇を締めてアンテナを高くして情報に高感度でなければなりません。その上に立って元気を出して精出すことでしょう。今年もなんだかんだといて終わろうとしています。掉尾を飾るよい仕事をして来年に繋ぎたいものです。

本年中賜りましたご愛顧に対し、心より厚く御礼申し上げます。最後に皆様のご健康とよき新年を迎えられますようお祈り申し上げます。

☆ 12月の魁基準建値は347円/kgです

11月の電気銅建値は1～6日330円、7～9日340円、10～30日350円で平均銅価は345円50銭でした。12月の建値は350円で始まりました。従って12月の魁基準建値は $(345.50 + 350) \div 2 = 347$ 円75銭円未満切り捨て347円となります。魁価格帯は300円超350円以下の欄で前月と同じです。